

ほぼ月刊 んだもしたん

(諸県弁の「まあどうした事でしょう」)

N. danmoshifan

自立型・飛沫感染防止パーテーションについて

今や様々な場所で新型コロナウイルス ウイルス感染予防として、飛沫感染防止パーテーションを見かける様になりました。大きく分けると、天井から透明シートを吊り下げる「幕型」とアクリル板を使った「自立型」です。今回は、弊社でも製作している自立型のタイプについて色々と書いていきたいと思います。

現在、自立型タイプで最も多く作られているのがアクリルタイプのパーテーションです。透明度が高く、加工できる機材も全国的に多く配置されていること、そして一般的に透明の板＝アクリルという名称が認知されていることも要因だと思われれます。アクリル板は製造方法によって硬さや透明度が異なります。最も硬く透明なのは「キャスト板」と言い、そのでないものを「押し出し板」と言います。キャスト板のアクリルの方が高いのですが、昨今のパーテーション需要によってメーカーの生産が追い付かないほどで



その様な状況を受けて、弊社で手に入る素材で、アクリルにはない魅力を含めて、製作を開始しました。アクリルにも弱点はあります。例えば重たいこと。卓上などで使われる場合、やはり倒れることや床への落下も考えられます。お客様の足の上部などに落ちて、弊社ではアクリルとは

別の軽量で柔らかいパネル素材を採用しました。落下した場合、パーテーション側が損傷することはあっても、利用者や傷つけることは無いようにしたかった為です。次に、アクリルタイプの導入先から得た情報として、消毒液に反応して曇る、ヒビ割れしたという話がありました。実際には、メーカーによって製造方法は違いますが、現場の消毒液の配合成分、加工機材・方法など、本当はしっかりとした検証が必要なお話です。納品後にそういったトラブルは避けたいところですので、耐薬品性のある透明素材で作成し、自社が所有するアルカリ性・酸性の薬品や消毒液で毎日消毒作業して検証してきました。拭きムラは出ますが、曇る・ヒビ割れはまた見られませんが、念のため、お客様からの問い合わせについては、透明板のメーカーが提供している耐薬品性に関する規格表を提示させて頂く様にしています。

最近では、「ひとまず自分たちで幕型を作ったが、長期化するので自立型を検討している」という方もいる様です。マスクや床の足型マークしかり、感染予防対策の見える化もポイントになってきていると思います。パネルの枠による存在感、対策の見える化が良いお客様であれば、枠が無い方が全くと透明の板で作られているものがスッキリして良いというお客様もおられます。弊社でも最近はず無し・全て透明樹脂板で製作したタイプもご用意しております。アクリルではなく、先述の耐薬品性のある塩ビ板になります。今後も技術を高めつつ、さらに情報収集とひと工夫に努めて参ります。

(帖)

最近では、「ひとまず自分たちで幕型を作ったが、長期化する

化する

化する



帰りがけ、以前テレビで見

帰りがけ、以前テレビで見

帰りがけ、以前テレビで見



高千穂牧場の近くにあるス

高千穂牧場の近くにあるス

ランチ野郎 見参!

「シュークリームからあんかけチャンポンの巻」

高千穂牧場の近くにあるス
イツショップ「アファミニッ
ツ」のシュークリームが食べ
たくて行ってみることにしま
した。オーナーはパリで二つ
星を獲得されており、帰郷
して開いたお店だそうです。



チヨースンのよくある話

「意味のあるもの」編

あるとき自分へのご褒美に昔憧れていた時計を探して中古で購入ところが、不良品で結果的にそのまま処分したものの、「何故壊れる？」を知りたくて調べはじめ、そこから一気に時計の歴史や特にムーブメント、いわゆる装置について興味・関心を持つようになりました。



最近の私の相棒時計は機械式です。その中でも、機械の動きが見えるデザインの「オープンハート」と言われる仕様のものです。「今どき機械式？」と思われる方もおられると思いますが、①自動巻の場合、自分が動かないと止まってしまうこと。②大抵ズレるので、ほぼ毎日調整が必要なこと。③磁気などに弱く、扱いに丁寧さを求められること等々、いわゆるこの

ちょっとした面倒さを私は大事にしています。というのも、私には私の、他人には他人の、そして時計には時計の「事情」というものがあることを意識させてくれるからです。

先日時計メーカー・開発者の記事で、時計は「役に立つものから、意味のあるものへ」という内容のを見かけました。日々の食事においても、ただの栄養摂取か団らんのひとつきなのか。レトルトか、手作りか。価値観の多様に富んだ今は、モノとしての機能だけでなく、「その意味」も重要だと考えさせられました。ふと思ったのは、私の接客経験から「腕時計をしている方」は時間に対する意識が高い様に感じます。瞬間的に時間を知るツールとしてだけでなく、ビジネスマンとしての身だしなみの面でも腕時計をされている方が印象が良いですし、所作も恰好が良い様に感じます。そういうところでも腕時計は接遇や商談の舞台の小道具としても「意味のあるもの」とも言えるかもしれません。

(帖)

いんちきクライマーが征く!

「椎葉村の深奥 三方岳・丸笹山縦走②」編

山登りは下るまでの体力の温存が必要で、片道燃料で山頂を「ゴール」にはできないのです。慎重にペース配分と時間のやりくりが必要となります。日帰り縦走では、より計画的な行動が求められます。さて、三方岳の山頂から、丸笹山へ

とつながる鞍部まで、二百メートルほどを一気に下る。ああもったいないのだ。この略、急降下だが、馬酔木あせびが行くてを塞ぎ、薄い踏み跡を慎重に探しながら進まないで、道迷いにつながり、あっというまに体力を絞られてしまうだろう。所々で藪を伐採してくれた登山者に感謝だ。印となる赤テープはほとんどないと思っただけがよい。鞍部から谷へ迷い込まないように注意すれば、なんとかいけるだろうが、とにかく下るのだ。下って下って、不安になるくらい下る。帰りの事を考えると、ゾッとするが…。崩落地までくだり、ようやく鞍部へ。ここからコブをふたつ越えると、三つ目が山頂のはずだ。遠くから見るとそう見えるのだが。がしかし、コブの数はそ

ようやく山頂に着いた時は、ほんとにうれしかったなあ。ああもう登らなくてもいいのだと…。直後、いや待て。帰らないといけないのだ。まだ登りは続くのだ…。どひゃ。

まずは馬酔木に占められている。進行方向の左、つまり北側の斜面を、トラバースするようにしてアップダウンをくりかえす道しかない。道といっても、うっすらとみえる踏み跡と、たまに出てくる赤テープ。ちょっとでも外れると、ズルズルと谷側に足をどられて、ふくらはぎの疲労がハンパない。ああ、登りでも下りでも、平らな道は素晴らしい…。足首の負担が全然ちがうのだと、いまさらながら気づかされる。何気ない登山道が平らに均されているのって、とってもすばらしいのだなあ。たまに広い道にでるとまた元気がでてくるが、そう長くは続かない。心が折れそう。引返そうか。まいっ

たな。逡巡をくりかえしつつ、それでも進んでいく。よし、これを登りきれば山頂だーと何度思って裏切られたろうか。一時間あれば丸笹山に着くと思っていたが、結局は一時間半かかった。気持ち的には三時間は歩いたようだった。

(賢)



編集後記

今回のクライマー記事にはうまさうなウィンナー画像が！最近のアニメ「ゆるキャン」が流行ったのも、作中に出てくる「キャンプ飯」が火付け役だったとか。私のマイブームはさておき、昨今のコロナ対策は、避難所や避難時の対策が多く報じられているように感じます。台風メカカの宮崎に住まう私たちも、日ごろの備えとして、意識・準備が必要でしょう。我が家も、避難時の備えと訓練を兼ねて、テントを購入し夏と冬にキャンプをすることにしました。長期保存可能な食料や簡易トイレなど買い集めてはありますが、実際に使ったことが無い上に、倉庫にしまいつ放しですぐに出せない。「多分あの辺」は、きつと勘違い。まずやってみます！(帖)